

4月27日 - 5月8日週のポンド円レビュー

May 11, 2009

リスク回避姿勢後退でポンド円堅調

High : 150.90 円 Low : 139.04 円

Close : 149.95 円

4/27 - 5/1

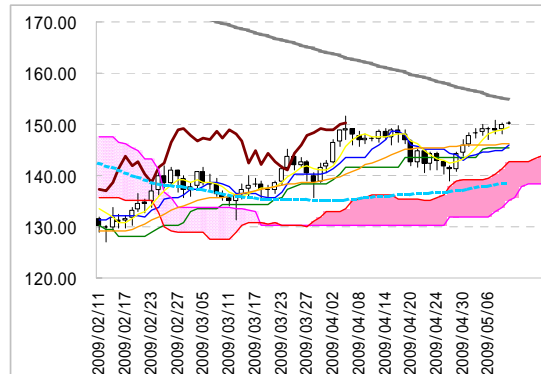
今週のポンドは、売り先行後は買い戻しが優勢。週末の G7 では世界景気の厳しい見方をやや緩めたものの、4月初めの G20 サミットを再確認するにとどまった。よって、ポンドは英国のソブリン格付けの引き下げ懸念が高まったことを背景に売りが旺盛となっていた。先週の流れを引き継ぐ形で、週初は売りが先行。英系大手外銀筋からは、「メキシコ発のインフルエンザが米国やその他の一部先進国にも広がりを見せる中で、投資家のリスク回避姿勢が強まった」との声も聞かれていた。こうした状況を受け、ポンド円は一時 139.04 円まで下落した。しかし、その後は買い戻しが活発化。悪材料は多々見られたが、米連邦公開市場委員会 (FOMC) で追加量的緩和が示されず、欧米株価が反発に向かったことから 148 円前半まで反発した。

5/4 - 8

ポンドは、景気悪化鎮静の可能性を示す経済指標が垣間見られるなか、買い戻しが先行した。ポンド円は一時 150.90 円まで上昇し、4月6日の年初来高値 151.53 円を意識させる展開に。ポンドドルも 1.5197 ドルまで上昇した。しかし7日、英金融政策委員会 (MPC) で、資産買い取り枠の 500 億ポンド追加が発表されると、英債利回り低下の影響を受けてポンド売りが優勢に。ポンド円は 148 円台に反落した。

月日	High	Low
4/27 (月)	142.86 円	140.16 円
4/28 (火)	141.98 円	139.04 円
4/29 (水)	144.55 円	140.83 円
4/30 (木)	146.97 円	143.66 円
5/1 (金)	148.37 円	145.63 円
5/4 (月)	149.15 円	147.35 円
5/5 (火)	149.88 円	147.82 円
5/6 (水)	149.33 円	146.98 円
5/7 (木)	150.90 円	148.09 円
5/8 (金)	150.17 円	148.20 円

ポンド円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

154.80 (200 日移動平均線)

=== 先週末の NY クロース円 149.95 円 ===

145.29 (日足一目均衡表・基準線)

138.39 (90 日移動平均線)

英国の重要指標結果

5/6 (水) [結果] (前回)

4月ネーションワイド消費者信頼感 [50] (42)

4月サービス業 PMI [48.7] (45.5)

5/7 (木) [結果] (前回)

イングランド銀行金融政策委員会 (MPC)、政策金利発表 [0.50%で据え置き] (0.50%で据え置き)

5/8 (金) [結果] (前回)

4月生産者物価指数(前年比) [+1.2%] (+2.0%)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 145.29 - 154.80 円

年初来高値を控えて上昇が抑えられ、テクニカル的に上値が重くなる公算が強まった。上値を買い上げていく材料が相次ぐ状態にならなければ、年初来高値上抜けまでの上値余地を探る動きにはつながりにくだろう。その意味で、12日の RICS 住宅価格や製造関連指標、13日の4月雇用統計そして四半期インフレ報告における景況判断などに注目したい。各指標は、基本的に数字自体は弱いレベルながら回復基調を示す予想。しかし、仮にインフレ報告が強さを示す内容となってもポンドが伸び悩めば、年初来高値更新への期待はく落からテクニカルな売りが進み、現在 145 円前後で推移している日足一目均衡表の基準線・転換線をメドに調整の下落が進むことになるだろう。